

平成12年度アマノリ養殖概況

牧野賢治・広澤 晃

平成12年度漁期の概況は、昨年と同様、採苗時期が高水温により遅れたため、育苗、冷凍在庫の作業が例年より遅くなった。また、11月上旬の大雨により、育苗作業中に淡水被害を受けた組合もあった。本養殖の開始時期は各漁協によって違い、早い漁場では11月中旬、遅い漁場では12月上旬であった。本張り後は、本張り開始時期の遅れと、11月の大雨による淡水被害の影響で、ノリ製品の量がまとまらず、第1回共販が中止となった。しかし、12月の共販枚数は前年比118.7%となり、この時期にアカグサレ病が蔓延しなかったのが、好結果をもたらしたものと思われる。年明け後は順調な生産が続き、3月中旬から4月上旬にか

けて栄養塩の低下による色落ちが見られた。

平成12年度漁期の共販枚数は約2億3千万枚、前年比124.1%だった。なお、単価は九州有明海の凶作により単価が急騰し、平均単価は12.09円、前年より04.17円高だった。

- 1 平成12年度漁場環境状況（図1～6）
（降水量及び日照時間は徳島地方気象台のデータを用いた。）
- 2 平成12年度漁期の共販結果（図7～8）

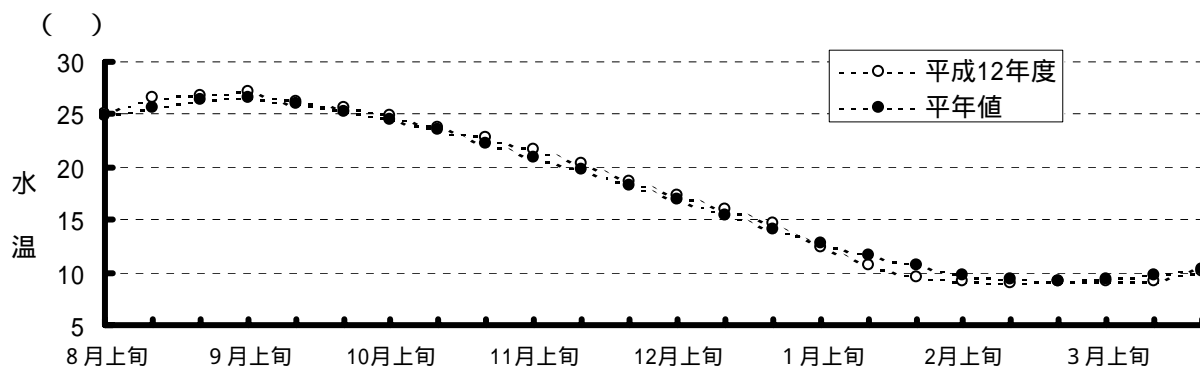


図1 平成12年度水温（鳴門分場汲み上げ海水）

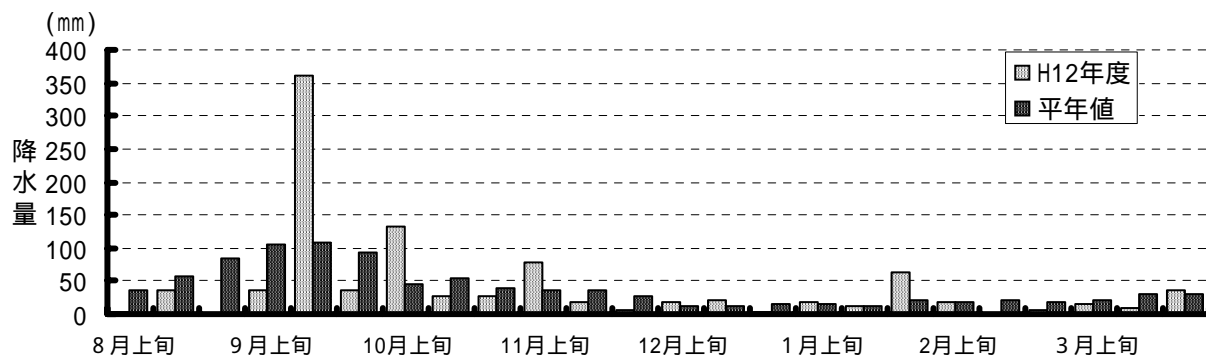


図2 平成12年度漁期の降水量（徳島市）

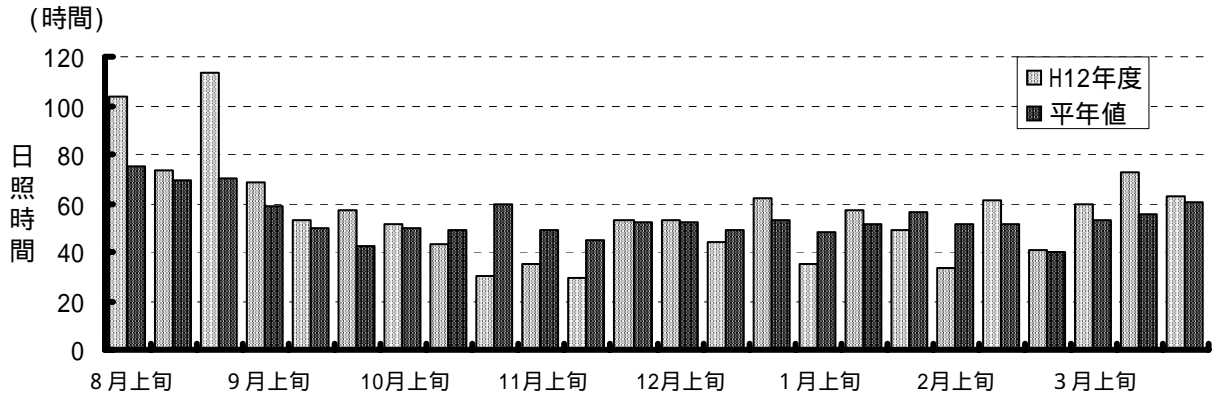


図3 平成12年度漁期の日照時間(徳島市)

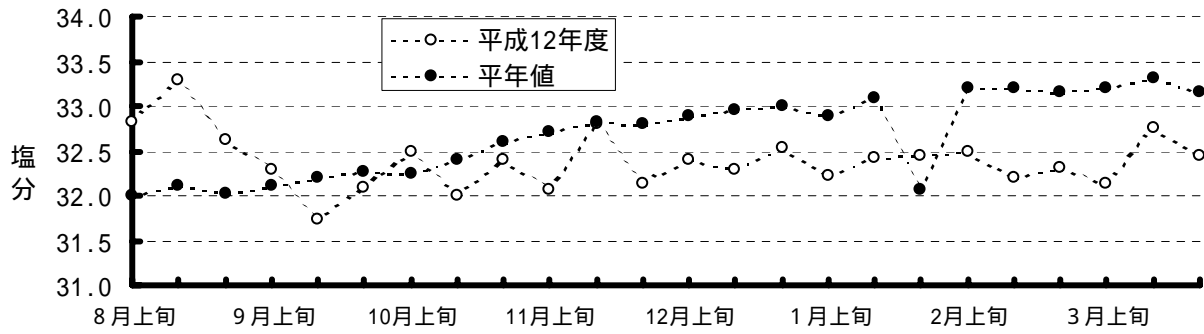


図4 平成12年度塩分(鳴門分場汲み上げ海水)

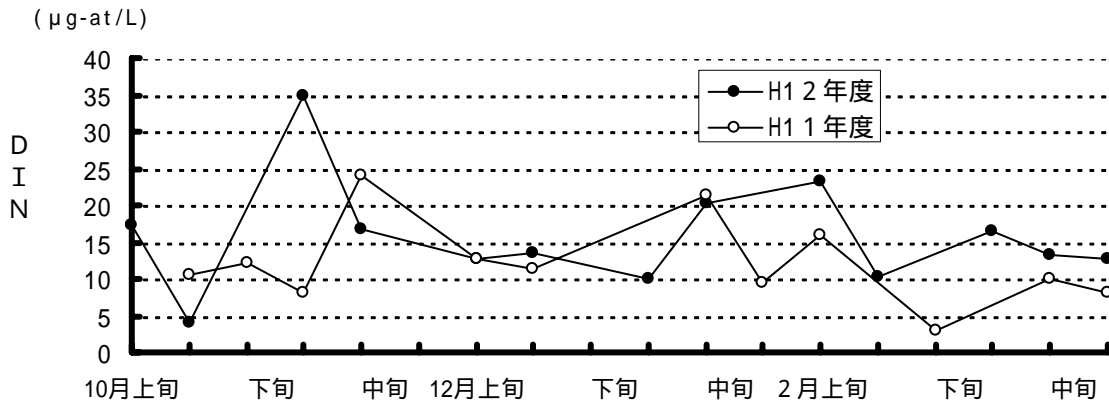


図5 各漁場のDIN(吉野川河口周辺)

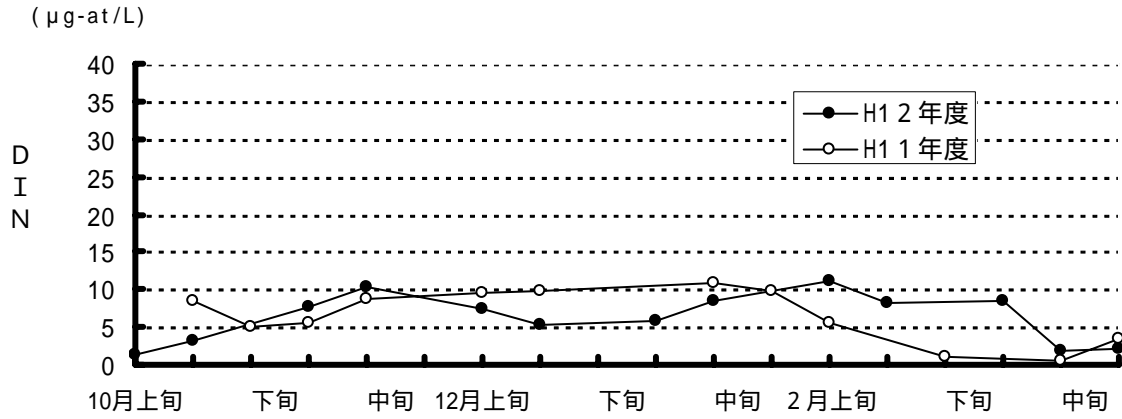


図6 各漁場のDIN (県南部漁場)

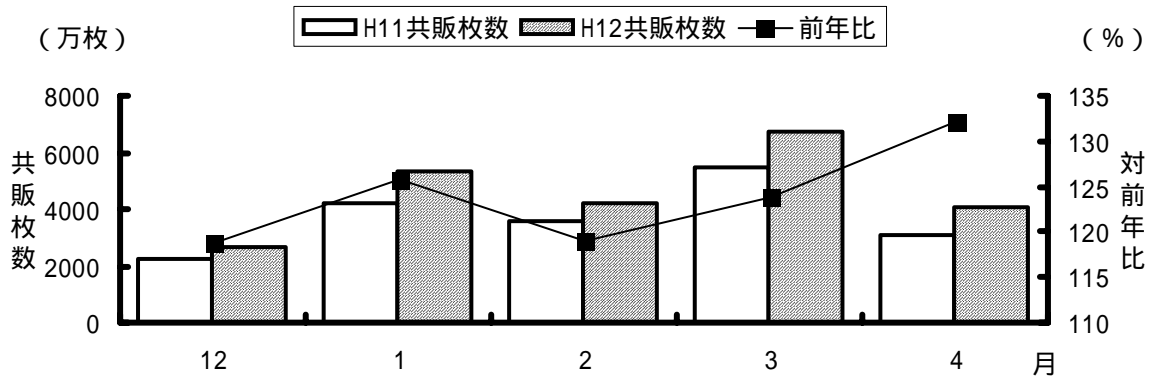


図7 月別共販枚数

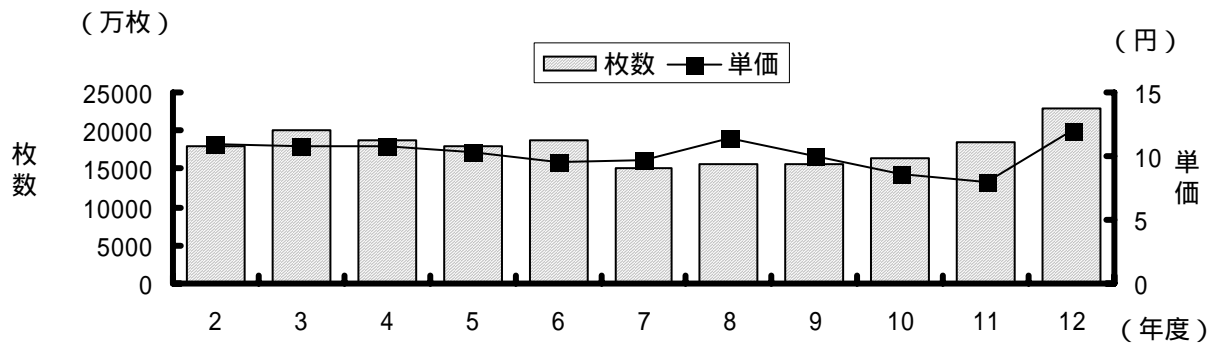


図8 年度別共販結果の推移